

特別寄稿

県令三島通庸
(山形市三島神社蔵)

萬世大路と西南戦争国事犯(その二)

(註1)

(註2)

小形利彦

いるのを見たとき、この資料が山形県内はもちろん全国の三島研究者が一度も目にしたことのない資料であることを確信した。都城市教育委員会の許可をいただいたので紹介したい。

図左から『山形流謫日誌』(一七cm×八cm厚さ一cm七九頁)『羽前国帰路日誌』(一一五cm×八・五cm厚さ〇・五cm

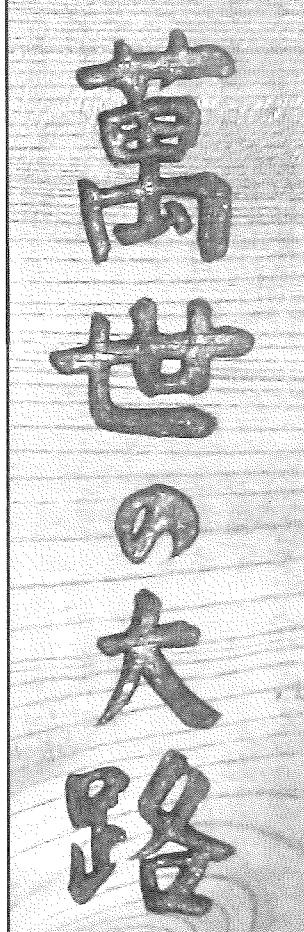
三五頁)『山形謫集雑記』(一七cm×八cm厚さ一cm八九頁)紹介にあたり出身地は旧藩名で、日記風に表現を一部修正した。

鹿児島県が編纂した『丁丑亂概』(明治十二年)には戦死・死生の報告がない者五二二八名、懲役刑一四八八名となり『西南の役薩軍口供書』(小野寺鉄之助)に懲役受刑者の約七割にある一〇五四名の口供書(含む野村綱雄・除族の上懲役三年)が収録されている。国事犯として刑が確定した者は各地の監獄署などに収監されている。

資料は野村綱雄が記述した一つで和紙に毛筆で書かれた日記(写真)である。非常に保存状態のよい資料で寄贈後も木箱に入れたまま保管された。

資料調査を行う機会に数回恵まれた。

都城市都城歴史資料館で木箱に入れた「山形流謫日誌」(註3)が展示されて

左: 山形流謫日誌
中: 羽前国山形帰路日誌
右: 山形謫中雑集

第19号
平成28年3月1日発行

発行者

歴史の道土木遺産万世大路保存会
会長田畠 實

事務局

万世コミュニケーションセンター
☎0238-28-5381

題字は村山通雄 元山形県知事

(註1) 西南戦争

薩摩士族は、戊辰戦争など維新まで、大きな政治的・経済的な犠牲を出してきたが、維新が成就した途端政府に登用された一部の者は高給と権力を得、大半は何の褒美もなく國許に戻り、旧来の生活に甘んじ、その後武士の身分祿禄も奪われ、政府側の人間は許せないという感情があり、鹿児島県と政府は対立し、一触即発の状態にあった。

西郷隆盛は、政府の考えにあわず官職を辞し、鹿児島へ戻り、いつかくる困難と政府改革をめざし私学校を設立した。政府は、鹿児島の動きを探るスパイを潜入、西郷の暗殺計画、陸軍火薬庫への襲撃・等々の事件十族の政府への不満などから西郷は、「今般政府に尋問の筋これあり」と

明治10年挙兵し東京にむけて進軍を開始した。

西郷軍(3万人)と武器の性能・近代的戦法に優れた政府軍(7万人)との熊本城近くの田原坂の戦いで西郷軍は敗退し、西郷は鹿児島に戻り、城山で自刃した。



(註2) 国事犯

国家の政治的秩序を侵害する犯罪。例えば内乱罪の類。

(註3) 流謫(りゅうたく)

罪によって遠方に流されること。

(註・文責 田畠)